

毎年三月に、全国市民オンブスマン連絡会議が都道府県と政令指定都市について情報公開の程度を評価した順位を公開している。四種の項目について、実際に役所に情報公開を請求し、その結果を一二〇点満点で評価したものである。これは各県の情報公開を評価するだけでなく、それぞれの県政の姿勢を評価することのできる興味ある数字である。

今年も首位は宮城で、過去七年のうち一回を例外として連続首位である。二位は同点で岩手、三重、和歌山、三位が鳥取と大阪である。この順位だけで断定するのはやや乱暴かもしれないが、上位の府県に共通しているのは、知事が行政改革を大胆に推進し、マスメディアにも頻繁に登場している地域である一方、低位にある地域は、一般に多選の知事が従前の行政を継続している目立たない地域である。

目立つということが素晴らしいことかはともかく、宮城では県警本部長交際費の内容を公開するかどうかを新聞記者も同席する公開の場所で議論し、鳥取では国会でも地方議会でも慣例となっている議会での質問を事前に入手することを廃止し、岩手の知事は公共事業の削減を県側から政府に提案する政策の中心になり、それぞれ既存の行政の手法や中央と地方の関係を改革する先頭を疾走している。

飛躍するようであるが、この九月にマイクロソフトがトロンを情報家電のOSとする目的で設立された共同組織「T-エンジン・フォーラム」に参加を表明した。これには様々な思惑が想像されるが、パーソナルコンピュータの市場が頭打ちになりつつある一方、次代のプラットフォームになると期待されている情報家電や携帯電話のOSの過半が「トロン」であり、「ウィンドウズCE」で対応できないとの判断があったことは確実である。

もうひとつは、ここ数年、世界各国で進行しているオープンソースコードのOSの採用の動向である。マイクロソフトはウィンドウズのソースコードを公開しないため、安全保障の観点から問題があると、公的機関などがリナックスへ転換しつつある。日本では独自のOSを新規に開発することも検討されている。このような動向に危機意識をもったマイクロソフトが方向転換の一步として、トロン陣営に参加したという推測も成立する。

一見すると相互に関係のなさそうな行政の情報公開と技術の情報公開には、背後に共通する時代の潮流がある。このところウィンドウズはコンピュータ・ウイルスの頻繁な攻撃に苦慮している。それはウィンドウズが世界のパーソナルコンピュータの九割以上に普及しているということも理由であるが、いかに巨大なマイクロソフトといえども、何百万行にもなる膨大なソースコードから完全に欠陥を除去できないということである。

一方、リナックスは最初こそフィンランドの一人の学生の創作であるが、初期からネットワークで公開されたため、世界の何百万人という有志が改良に協力してきた。すなわち情報公開するということは特定の個人の利益を代償にして世界全体の協力を獲得するという効果がある。地方行政についても同様で、その内容を公開することは、一部では制約にもなるが、一方で多数の住民の協力により行政を推進することが出来るようになる。

インターネットは従来のメディアと比較すれば、比較にならないほど安価に情報を公開することができ、かつ比較にならないほどの速度で社会が情報を共有することのできる手段である。その能力を駆使する戦略が、個人にとっても、企業にとっても、政府にとっても、今後の重要な課題になる。